

ICT 活用プロジェクト夏期講座の報告

大阪府支援教育研究会 研究部書記 吉村 清志
研究部支部役員 吉村 早苗
研究部支部役員 木邨 咲友梨
本部担当 書記 根本 貴明

今年も ICT 活用講座を 1 日目は大阪府教職員会館（たかつガーデン）、2 日目は箕面支援学校において 2 日間、開催しました。今年度も府内の先生方をはじめ、県外の先生方や、放課後デイの職員の方等、2 日間で 85 名の方々に参加いただきました。

講座の様子

① 8 月 8 日開催

8A 講座 対談・ディスカッション

「特別支援教育×GIGA のこれまでとこれから—外部アドバイザーの立場から—」

講師 海老沢 穰さん（一般社団法人 SOZO. Perspective 代表理事）

鈴木章 裕さん（あっきーテックサポート代表）

参加人数 35 名

講座及びディスカッションの内容&講師紹介

特別支援教育では、「個に最適化された学びのツール」として情報機器端末の活用が、学びの場で実践されてきました。今回は、特別支援教育での ICT 活用に外部専門家として関わるお二人をお招きし、これまでの GIGA の取り組みを振り返るとともに、これからの特別支援教育での GIGA, 「NextGIGA」についてみなさんと一緒に考えていきます。



海老沢 穰（えびさわ ゆたか）さん

特別支援学校教員時代に ICT を活用した様々な授業を実践され、現在は法人の代表理事として、「子どもたちの長所・強みを引き出すための ICT 活用」をテーマとした講演活動や講師、また外部専門家として学校現場等でのアドバイスを行っています。



鈴木 章裕（すずき あきひろ）さん

特別支援学校教員時代より「あっきーの教材工房」を主宰され、主に特別支援教育を必要とする児童生徒への iPad APP. の開発を行われてきました。現在は外部専門家として特別支援教育における ICT 活用についてのアドバイスを行っています。

子どもたちがアウトプットできるツールとしての iPad の利用を紹介いただきました。

また、「すべて自分ごとにできる学びから生まれるもの」ということも、その重要性に気づかされました。自分のことは自分で決めることで、自立と社会参加につなげることができるようになる。自己選択自己決定の大切さを感じました。

鈴木先生より「えにっき」や「ごじゅうおん」などのアプリの紹介をしていただきました。また、私たちにできる支援というのは、「子どもがトライ&エラーを安心してできる環境」を作っていくこと。そして、「できるようにしたよ！好きに使って！」というスタンスで子どもたちに自由に使うことで子どもたちは、楽しむことで操作を学ぶようになると教えていただきました。

〈講座参加者の感想、アンケートの回答内容等〉

- ・「障害＝生きづらさ」「コミュニケーションが取れない＝手段を保障されていない」などのお話があり、はっとさせられました。もっと、積極的に ICT を活用できるように支援していきたいと思いました。
- ・知らないアプリを教えていただいたり、緘黙の子どもとのコミュニケーションのヒントをいただいたりと、とても勉強になりました
- ・型にとらわれた使い方をしがちですが、同じアプリを使ったとしても子どもが違えばその子どもの数だけ使い方の幅があるのだという気づきがあった
- ・ICT は活用していかないとスキルが身につかないので、初めは道具を使うことを目的として遊びの中で使っていくことで操作の仕方や楽しさを実感できることを学びました。

② 8月9日開催

9B 講座 マジカルトイボックス大阪場所

「タッチセンサースイッチとクッションに埋め込むブルブル振動装置を作って遊ぼう！！」

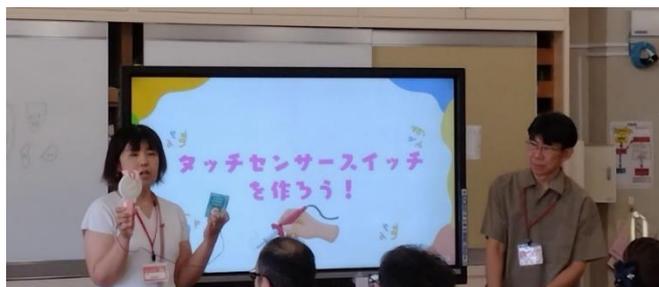
講師 谷本 式慶 さん（東京都立村山特別支援学校）

渡邊 貴子 さん（NPO 法人訪問大学おおきなき）

参加人数 10名

講座内容&講師紹介

「障がい重い人でもコミュニケーションをしているはず。なんとかそれを豊かにできないだろうか？」の想いをもとに、1996年からAACを普及するためにイベントなどの活動をされてきた「マジカルトイボックス」の皆さんが今年も「マジカルトイボックス大阪場所」を開催します。今回は「タッチセンサースイッチとクッションに埋め込むブルブル振動装置」の製作をし、その使い方紹介や皆さんと一緒に今後の活用方法などを共有したいと思います。



「タッチセンサースイッチ」と「ブルブル振動装置」の制作を教えていただきました。はんだごてを使って配線をつける作業なども、とても丁寧に教えていただき、全員完成させることができました。付けて使える玩具も紹介いただき完成後には動作確認をして自作のスイッチの出来栄を確認しました。

〈講座参加者の感想、アンケートの回答内容等〉

- ・自作であうものを作るというのがすごいです。
- ・なかなか機会のないスイッチを作る事が出来て大変嬉しいデス!!また、スキルが上がりました。
- ・自分で振動装置を作成できたため普段使っているセンサーやスイッチの仕組みを知ることができ、自分で作ることができて楽しかったです。
- ・興味をもてない子に対しての興味付けに出きればと思っています。
こんかい、知的の学校のため、肢体の児童たちとは用途が違うのですが、自分で操作している、と言う感覚は掴めるため、今回作成したおもちゃで遊んでみたいと思います。

③ 8月9日（金）

9C 講座 あっきーの教材工房 Presents 「iPad APP.Drop Tap を使い倒す」

講師：鈴木章裕（あっきー）（あっきーテクノサポート代表） あっきーの教材工房

参加人数 18名

講座内容と講師紹介

今回は豊富な APP. 群の中から、コミュニケーション APP. 「DropTap」を取り上げ、会場で皆さんと一緒に操作を体験する「hands-on」での講座を開講します。そして、なんと講師を引き受けて下さったのは「DropTap」開発チームの一人で、プログラミング担当の「あっきーテックサポート 代表 鈴木章裕」さんです。開発チームプログラム担当者ならではの視点であっきーさんに APP. 解説をしていただき、皆さんと一緒に「DropTap」を使い倒せるようになりましょう！！



Drop Tap の基本的なボードの作り方から、応用的な音声を変える方法など1つ1つ丁寧に教えていただきました。また、Drop Tap のドロップスの種類が豊富で、が学校行事のイラスト（保健行事など）にも使えるということで、イラストの使用方法なども教えていただきました。

〈講座参加の感想など〉

- ・初め DropTap を操作しました。個々の様々なシーンに対応できるので、とても使いやすかったです。
- ・機能と仕組みを知ることができ、基本的な使い方だけでなくアレンジして使うこともできそうなのが大変良かったです。
- ・キーノートと関連した使い方も教えていただいたので、ドロップタップの使い方のバリエーションも増え、授業でもたくさん使えそうです。
- ・2学期からの子どもたちとのコミュニケーションに活用していきたいと思います。
- ・できないことをいかに工夫してできるやり方を見つけていくのか、試行錯誤を楽しむ事を学びました。

④ 8月9日（金）

9D 講座「大切な誰かのためのモノづくり～誰か一人のために作る価値と可能性～」

講師：廣瀬 元紀（おぎモトキ）さん（OGIMO テック開発室 父親エンジニア）

参加人数 22名

講座内容と講師紹介

おぎモトキさんこと「廣瀬 元紀」さんは、本業ではなく個人活動「家族のためのモノづくり」として、ご自身の息子さんや家族、大切な誰かのためにをモットーに、リハビリ機器・モビリティ・改造おもちゃ等を製作し、実生活にて活用中です。オギモトキさんの「家族のためのモノづくり」を通じた家族支援のお話を通して、特別支援教育で大切な個別最適化やそこから繋がる応用、汎用性について一緒に考えていきたいと思えます。



「本人の好奇心を引き出す遊び心×スピード感×日常使用」をモットーにモノづくりをしている父親エンジニアの廣瀬さんに、素敵なお話を沢山聞かせていただきました。息子さんとの生活の中の、どんなタイミングでどのような発明機器が出来たのかを教えていただき、たくさんのおもちゃ・機器の紹介をしていただきました。実物も沢山持参していただきました。また、現在取り組んでいる、ロボット開発やポッチャ大会についてもお話していただきました。

〈講座参加の感想など〉

- ・子どものちょっとした好奇心を見逃さずにとらえ、またタイミングも逃さないように即実行する姿がとても素敵で、見習わなくてはと思いました。
- ・その子のために、笑顔のために、廣瀬先生の思いが伝わってきて、一緒に嬉しくなりました。お話を聴きながら、子どもたちに十分な支援が出来ているか、忙しいことを言い訳にしないか改めて振り返りました。子どもたちの笑顔を大事に、あらためて2学期から頑張っていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・前向き、タイムリーな行動力を見習いたいです。
- ・できることに目を向けて、どうすれば可能になるのかを考えながら授業作りをしていきたい。
- ・子どものやりたいという気持ちを引き出すことの大切さをあらためて感じました。

⑤ 8月9日（金）

9E 講座 「ようこそ浅田屋へ-機器展示・体験」

講師：浅田 寿展 さん

（元兵庫県中学校技術科教員・JA教育研究会・北神戸スイッチルーム）

参加人数 3名+1名（飛び入り）

講座内容と講師紹介

元中学校技術教員の浅田さんは、JA 教育研究会を運営され、中学校技術科で使用する教材開発や副読本の執筆などをされています。また、近年は技術科教育での知見を活かし、特別支援教育で活用できるスイッチなどの入力機器やおもちゃの改造などの開発を行なっておられます。今回浅田先生には「ピルケーススイッチ」「プッシュライトスイッチ」「簡単 BD アダプター」の3種類の製作物をご準備いただきました。

各製作物案内（1回30分程度）

開始終了時刻	製作物	定員	製作材料費
11時00分～11時30分	ピルケーススイッチ	3	300円
11時30分～12時00分	プッシュライトスイッチ	3	400円
12時00分～12時30分	簡単 BD アダプター	3	300円



「8月8日は「たかつガーデン」、8月9日は「箕面支援学校」で、それぞれ沢山のスイッチやおもちゃで展示・体験会をしていただきました。講座、研修時間内の休憩時間や昼休みに沢山の先生方に見学・体験にお越しいただき、浅田先生とお手伝いの伊丹先生（元大阪府立支援学校教員、大阪支援教育コンピュータ研究会）からご説明いただきました。

体験もしていただいたので、「初めて見ます！」「これ面白い！」「こんなことができるんや！！」「これは、どうやって作るんですか？」など、一人ひとりの先生方とじっくり相談や意見交換をしていただけました。

製作は合計4名の方にご参加いただきました。画像は、伊丹先生から参加者がレクチャーを受けているところです。ほぼ、マンツーマンに近い状況で丁寧にご指導していただきました。」